

平成二十八年(二〇一六) 中学校入学試験問題 (A日程) 国語 不二聖心女子学院

(解答はすべて解答用紙に記入すること)

受験番号

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

① 何が楽しみだったのだろうか。

父は竹細工職人。

b チョツゲイ八十センチほどの丸いしょうけ(ざる)を作っていた。形や大きさの違うものは作らなかった。と言うより

② のかもしれない。それは生真面目で融通が③ ない性格からきたものだろう。

玄関の土間には長い竹ひごが、いつもたくさん並んでいた。そのほこりが付いた薄っぺらな座蒲団に座って仕事をしていた。

朝は母と一緒に起きてご飯ができるまでしょうけを作り、夕飯が済むと夜なべをした。一日の大半を父はその座蒲団の上で過ごした。うちではいつも家にいるのが父で、母は畑仕事に出かけることが多かった。

夏、玄関を開け放して仕事をしていると、おしゃべりにやって来る近所のお年寄りもいた。父は笑ったりうなずいたりしながらも、仕事の手は休めなかった。時々仲買さんが来てしょうけを買っていった。だから④ を持っているのは父で、母は父からもらって買い物に行ったりしていた。

小学一年か、二年生の頃だったと思う。

その日はとても寒く、庭には霜柱が立っていた。家族みんなで朝ご飯を食べていると五十代半ばくらいのおじさんが玄関の戸をそーっと開けた。遠慮がちに笑みを浮かべている。

「朝早くに突然おじやましてすみません。私はK村のSと言うものです」

K村は我が家から四、五キロ離れた山里だ。顔は赤く火照って、帽子をとると額にはうっすらと汗をかいている。

「急に入り用ができて、ここならきつと買ってもらえるだろうと厚かましくやってきました」

おじさんは重たそうな背中の風呂敷包みを上がり框に下ろした。おもむろに開けた包みの中の布袋には米が入っていた。この秋取れた新米だと言う。子ども達は好奇心でおじさんを見ていた。一瞬シーンとしている中、父は食事の手を休めそっと立ち上がった。食器棚の引き出しからサイフを取りだし、おじさんのそばへいった。

「よかですよ。買いまっしょ。いくらですか。どうせ米は買いますとやけ、うちも助かります」

父はおじさんの言う金額を渡した。おじさんは、ありがとうございます、オンに着ますと何度も頭を下げて帰っていった。私は父が、人助けをした、いいことをしたと喜ぶ気持ちには、なぜかならなかった。ただK村の人がどうして方言ではなくきれいな言葉なんだろうと気になった。

その後おじさんは月に一、二回やって来るようになった。理由はいつも、お金が急にいるようになった、だった。朝食の時間のころ来て背中せなかの二モツふたもつもやはり米だった。食べ盛りぐさの子どもが五人もいれば、おじさんの背負える分の米は数日でなくなっていたろう。

父はその米を気持ち良く買ってやり、母も慣れてくると、

「重かったでっしょう」

とお茶を出したりするようになった。

三、四カ月も過ぎた頃だろうか、長兄ちやうけいがどこかでおじさんの噂話うわさを聞いてきた。兄は私より一回りも離れていて、もう働いていた。おじさんは東京から夜逃げしてK村に住み着いたこと、近所ではほらふきのSすと言われみんなシンヨウしんようしていないことなど、あまりいい話ではなかった。父は、

「ほう、そうかい」

と答えた。【ア】もうあの人から米こめを買うのは止めたほうがいい、と兄は少し強い口調くこうでつけ加えた。父は、

「うん、うん」

とうなずいた。

おじさんはその後もやってきた。父は兄の注意など聞こえなかったみたいに、相変わらずその米を買い、母はねぎらいのことばをかけた。

半年を過ぎた頃からだろうか、おじさんは頻繁ひんぱんに来るようになった。それに反比例するように持ってくる米の量は少しずつ少なくなっていくた。【イ】両親は以前と同じようにセツせつしていた。

⑦ 私は少し不安になった。

（その後、「おじさん」は、米を持ってこずに前借りを願い出て現金だけ持って帰った。

それから一カ月たっても二カ月たっても現れなかった。）

時は流れ子ども達もそれぞれに家庭を持った。平成となり父も齢八十よわいを過ぎた。

量は減ったが、それでもしうけを作り続けた。夜なべだけは止めたらと言うと父は嫌きらった。父のしうけはとて不ふンイリふんいりに作ってあり、使うのがもったいないくらい立派なものだった。そんなに懸命けんめいに作るしうけも、次第しだいに輸入品の安いものに押おされていった。

ある日、仲買さんが同居している長兄の嫁よめに、

「もうあんまり売れなくなりました」

⑧ と父には聞こえないように言った。

「そうですか。それじゃおじいちゃんのしうけを買っていてもコこマまるんじゃあないですか」
と兄嫁は不安げに尋ねた。

「いやあ高夫さん（父）の作らっしゃるぐらいは、売れますけん」

仲買さんは、時々来ては完成したしうけを買い、父に⑨を払はらっていった。

兄嫁は少しでも仲買さんの負担を軽くしようと、父のしやうけを知り合いの人や、農家の人などにも少しずつ配った。^⑩
 みんなとても喜んでもらってくれた。

父はそんな回りの気遣いなど露ほども知らず、亡くなる数カ月前まで仕事をした。仲買さんも土間にツンであるしやうけはすべて買っていつてくれた。

九十歳の誕生日の一週間前に、父は静かに眠るように亡くなった。春まだアサい晴れた日の朝だった。

兄夫婦は四十九日の法要に、父が一生作り続けたしやうけを引出物にすることにした。

初めて仲買さん宅を訪ねると、気持ち良く迎えられた。法要に来てくれる人を思い浮かべながら、いろいろな種類のしやうけを買うつもりでいた。倉庫にアンナイされて驚いた。たくさん重ねてあるしやうけは、紛れもなく父の作ったものだった。父の作ったものだけだった。^⑪ 兄嫁はそれを見て目頭を押さえた。^⑫

父と仲買さんとのつき合いは、六十年あまりにもおよんでいた。

子どもの頃米を売りに来たおじさんは、再び父のもとへ来ることはなかった。

人を疑うということをはほとんどしなかった父。当時、わずかではあってもいつも現金を持っている父の元へ無心に来る人は、米売りのおじさん以外でも何人もいた。【ウ】最後は父がだまされてその人との幕は閉じる。^⑬

幼心に、もう少ししつかりしてよ、と思ったりした。

その一方、父を裏切らず売れないしやうけを買い続けてくれた仲買さん。

旅行より、どんなごちそうより、あかぎれの切れた手でしやうけを作っている時が一番楽しそうだった父。

^⑭ 人生最後は、帳尻が合うのかもしれない。

松浦勝子「約束」(問題文の一部に表記の変更、省略あり)

(注) 1 「夜なべ」……夜に仕事をする事

2 「仲買」………売る人と買う人の間をつなぐ役目の人

3 「上がり框」…家の上がり口にある、横にわたした木

4 「ほらふき」…うそつき

問一、~~~~線 a m のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直さない。

問二、——線 ① 「何が楽しみだったのだろうか」について、作者はなぜこのような思いを持ったのか、くわしく説明しなさい。

問三、====線 A 「いつも」・B 「いつも」・C 「みんな」はどこに係るか。次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

A 玄関の土間には 長い竹ひごが、いつも たくさん 並んでいた。

B うちでは いつも 家に いるのが 父で、

C みんなで 朝ご飯を 食べていると 五十代半ばくらいの おじさんが 玄関の戸を そーつと開けた。

問四、② にふさわしい言葉を六字で答えなさい。

問五、③ にふさわしい言葉を次の中から選び、適当な形に変えて答えなさい。

「たる できる きく みちる とれる 」

問六、④・⑨ には同じ言葉が入る。ふさわしい言葉を本文中からぬき出して答えなさい。

問七、線⑤について、なぜ「遠慮がちに笑みを浮かべている」のか、考えられることを二つ答えなさい。

問八、「ア」「ウ」にふさわしい言葉を、次の中から選び、記号で答えなさい。同じ記号を二度用いないこと。

「 1 なぜなら 2 それでも 3 そして 4 だから 」

問九、線⑥について、なぜ「米を買うのは止めたほうがいい」と兄は言ったのか、答えなさい。

問十、線⑦「私は少し不安になった」について、なぜ「不安になった」のか、くわしく説明しなさい。

問十一、線⑧「父には聞こえないように言った」について、このときの仲買さんの気持ちはどのような気持ちであったか。もつとも適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 父に対して不満を言いたいのだが、その思いを必死にこらえている気持ち
イ 父が一生懸命作っているので、仕事のじゃまをしたくないという気持ち
ウ 父にとつてつらい事実を本人には聞かせないようにしようとする気持ち
エ 父に伝えたくても売れないことがショックで声も出せない気持ち

問十二、線⑩について、「仲買さんの負担」とは何か。適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 仕入れたしようにけを売らなければならないこと
イ 輸入品もとりそろえなければならないこと
ウ 使うのがもつたいたくないしようにけが立派なこと
エ 知り合いの人に配らなければならないこと

問十三、線⑪「露ほども知らず」・⑬「幕は閉じる」について、この場合の意味をそれぞれ答えなさい。

問十四、線⑫「兄嫁はそれを見て目頭を押さえた」について、

(i) 「目頭を押さえた」の意味としてふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 驚きの表情をかくすこと
イ こまりはて考えこむこと
ウ 頭が痛いのを必死にこらえること
エ なみだ 涙がこぼれるのをおさえること

(ii) 「兄嫁」はなぜ「目頭を押さえた」のか、くわしく説明しなさい。

問十五、線⑭について、「帳尻が合う」とは「ものごとが最終的にバランスよく終わる」という意味だが、この場合「人生最後は、帳尻が合う」とはどのような事実を指しているのか、文章中の言葉を用いて説明しなさい。

問十六、あなたが何かに懸命に取り組んだ経験について、三百字以内で作文を書きなさい。(別紙原稿用紙に書くこと)

受験番号

問十六 別紙原稿用紙に書くこと	問十五	問十四		問十三		問十一	問十	問九	問八	問七 ● ●	問四	問三	問二	問一			
		ii	i	⑬	⑪									k	f	a	
														ツ	シン ヨウ	竹 細 工	
														んで	l	g	b
														ア サ	ロ 調	チ ョツ ケイ	
														い	m	h	c
														アン ナイ	セツ して	額	
															i	d	
															ネン イ り	オン	
															j	e	
る	コ マ	ニ モツ															

